

フレンドリーシティ派遣事業 ～私にはこんなすばらしい成果がありました～

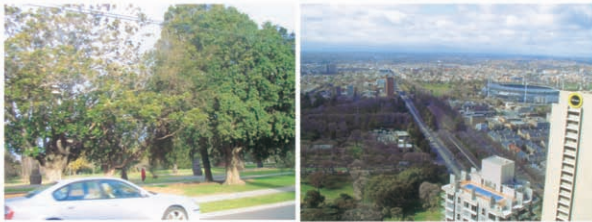


オーストラリア・グレンアイラ市

オーストラリア・グレンアイラ市研修派遣に行つて

ぼくは、グレンアイラ市の研修派遣に行きました。そこで感じたことは2つあります。
1つ目は、みんなが優しいことです。どこへ行っても、みんなが「こうするんだよ」とか、「来て」など、初めて会ったとは思えないほどでした。ホストファミリーの家に行ったときは、本当に初めてだったのに、快く迎え入れてくれたし、自分の子供みたいにやり方などを親切に教えてくれたので、ホストファミリーに気軽に話しかけることができました。

2つ目は、緑が多いことです。道路と歩道の間には、ちゃんと街路樹が植えてあり、手入れがされていて驚きました。また、歩道を歩いていてふと家の方を見ると、どこの家も一家に1つずつ小さい庭が必ずついていることを発見しました。そして町全体が緑なので、目がとても休みました。



2日目のお昼を食べに行ったとき、とても大きいタワーにのぼりました。トイレから景色が見られると言われてトイレに行ってみると、びっくり。自分が巨人になったようにそこからグレンアイラ市全体が見わたせました。そこには、歩いていては分からないような緑がいっぱいでした。ぼくは、「緑というのは街路樹だけかなあ」と思っていたけれど、公園やコンフィールドなどにも緑があって、「そうなんだ」と発見することができ、中心地の近くで、ビルの近くに緑がいっぱいあるのは、大垣の街の中にはない不思議な光景でした。また、グレンアイラ市は「緑がいっぱいある町なんだな」と思いました。

7日目のシドニー見学では、オペラハウスとハーバーブリッジを生で見ました。はじめて見たとき、大きさに感動し、一瞬目がきけなくなるほどでした。帽子を忘れてきたりしたこともあったけど、ぼくは8日間、大垣市の代表として、ホームステイというとても貴重な体験をしました。外国の人のとふれあいを通して、最初は身振り手振りだったけど、そこから少しは話せるようになったので、自信ができました。この研修は、一生心に残る思い出になりました。



多良小学校 6年 三輪圭司



初めての外国はホームステイ

はじめて、オーストラリアにホームステイの団員として、向かった。さいしょは、「不安」という文字が頭の中いっぱいによぎって、すこしこわかったけど、Claire (クレア) の家族に「ようこそ オーストラリアへ」と、いってくれたことで、とてもうれしかった。でも、英語は「かりの国」で親もいないのに…。外国にきたの初めてなのに…。という心配がありました。それでも、Claire はやさしくて、いっしょにいて、おたがいに辞書を使って、会話をするのでした。一言だけでも、伝えろくに時間がかかりました。それでも、Claire は、いっしょけんめい、日本語をさがしたり、私の話を聞いてくれました。他にも、Claire の弟の Ryan (ライアン) と Aidan (アイトン) やお母さんの Barbara (バーバラ)、お父さんの John (ジョン) といっしょに手巻ずしを作ったり、いっしょに南十字星を見たり、8日間のホームステイは、不安から、とても楽しかった思い出にかわりました。

青基小学校 六年

酒井 美乃理

ホストファミリー

8/24 ボーリング
日本のボーリングと同じでしたが、
くつのサイズの表し方がずかば、私は
「4」でした。

8/25 ダンス教室
ヒップホップのダンスで、傾斜車などとても
上手でした。

8/26 ショッピング
イオンの3倍くらいあるショッ
クセンターで、とても広かったです。
カップケーキ作り
キッチンに本格的なおブツカ
あり、とてもおいしく作れました。

8/27 ネットボール
バスケットボールの小さいボール版のような
感じでとても楽しかったです。
料理教室
チョコ味のカップケーキをみんなで
作りました。

朝ごはん
朝ごはん

感想
私は、ホームステイを通して伝えることの大切さ
を学びました。言葉のかばはあきらめ、かたこと
英語やジェスチャーを使って伝えたときはとてもうれし
かったです。また、私のホストファミリーは、みんな理解しあ
い、よく話しかけてくれました。とてもうれしかったです。
また、ネットボールやダンス教室に傾斜車を作ったり、とても楽しかったです。

ボリン、麦のきな粉を
にた食べ物。

Bethany (ベサニク)
Cassandra (カサンドラ)
Mark (マーク)
Rose (ローズ)
Van (ヴァン)

ホームステイ

中川小学校 6年 鍵本なつみ



私と1週間一緒にいてくれた家族は、とても優しく、とても楽しい、一緒にいる時間がとても速く感じる様な家族でした。

ホストファミリーと私が出会ったのは2日目の夕方でした。ホストシスターへの第一印象は、「うわあ、美人なお姉さんだなぁ。」でした。

私が持って行ったお土産は、日本語の漫画 (ONE PIECE、蛍火の杜へ)、うちわ、浴衣 (右の写真は私が着せたもの) でした。

チェルシーの家にはWiiやUNOがあって、マリオパーティーやマリオカートなどをチェルシーとロッキー (チェルシーの弟) と3人で毎日遊びました。UNOはお父さんも参加しました。ipadのUNOでも遊びました。

6日目にメルボルンZOOへ連れて行ってもらいました。コアラはもちろんカンガルー、サル、ゴリラ、キリン、その他諸々いましたが特に可愛かったのはくペンギンでした。



とっても可愛いペンギンでした。



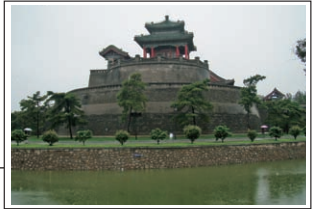
チェルシー家は、言葉の壁があっても、一緒に笑い合えるということを教えてくれました。一緒に楽しめる事を教えてくれました。私を快く受け入れてくれたチェルシーと、その家族に心から感謝します。



THANK YOU !! MY FAMILY !!



中国・邯鄲市



4日目（ホームビジット）
興文小学校 5年 中島 朱里
ホストファミリーとの対面のときはとても
きんちょうしました。そして対面式が終、た
ら、タクシーで公園へ行きました。その公園
はと、とても広くて太極拳をやっている人もい
れば歌をうたっている人もいました。
そして次にホストファミリーの子の家
に行きました。着いたら自分の自己し
ょうかいを中国語でいいました。そして
お母さんとお父さんをしょうかい
してもらいました。お兄さんはとて
も絵がうまくて、日本語でこんにち
はと書いてある絵をもらいました。そしてお
昼ご飯です。水きょうぶがとてもおいし
か、たです。そしてお昼
ご飯を食べたがホストフ
ァミリーの子のインターネッ
トで遊びました。わたしは
ホストファミリーの子に「少し休む？」と言



われました。少し休むはずだ、たのですか！
時間半もねてしまいました。

ホテルにもど、てお別れです。なめだが出
てうになっしてしま。たけれどホストファミリ
ーの子に心配をかけてはいけなからがまん
しました。とてもさみしか、たです。

ホストファミリーの子とすごした1日はと
ても楽しか、たです。

これから多くの子が中国の人とふれあ
てほしいと思いました。



中国派遣をとおしてばくの変化
中川小学校6年 篠原 大弥
ばく達はこれまで五回の事前研修と、八月
十八日から二十日の中国派遣をしてきました。
その中で自分の変化を感じています。一つ目
は、団結力です。はじめて派遣団の皆に会、
た時は、年令も学校もちがう知らない人ばか
り緊張しました。でも中国語での桃太郎の
紙しばいの練習や、一緒に食事をする事で
関係が深ま、ていきました。特に桃太郎では
全員が同じ目標に向か、て練習をしたことで
団結できました。中国では拍手をもらえて成
功したので良かったです。
二つ目は、いろんな事に注意するようにな
、たことです。中国では団体行動をしたので
時間を守、て一糸乱れず動くことが大切でず
そこで今までよりか、と時間を意識するよう
になりました。また持ち物には特に注意して
なくさないようにしました。

三つ目は外国の人とま、と話をしたいと強
く感じたことです。中国語はあい、さつ程度を
覚えましたが、ホームビジットでは簡単な英
語と漢字を紙に書いて話をしました。そ本で
も伝ありましたがま、と細かい気持ち伝
えるにはま、と言葉を知りたいと思いました。
帰国後は、英語の塾の宿題は自分で進、人で
りかかるようになりました。家の人とま
「変あ、たね。」

と言あ本てう本しか、たです。

この研修派遣でばくは団結力の大切さ、時間
を意識して行動することそ、て言葉の勉強を
したいという覚、欲があいてま、ました。このこ
とを忘、えることな、くこ本からま、挑戦してい
たいです。



フレンドリーシティ派遣事業 ～私にはこんなすばらしい成果がありました～



ドイツ・シュツットガルト市



～ホームステイファミリー～

今でもずっと豆莢の中にある思い出は、ホームステイファミリーの人たちの優しさ。2日目に、学校でパートナーの子に「勉強が悪い」と言ったら、すぐに周りの先生方に伝え、病院へ連れて行ってくれた。その日は高熱が出てとても体調が悪かったので、ホームステイ先の家で休むことにした。ホームステイ先の家では、パートナーの子のおじいさん、おばあさん、パートナーの子がすごく優しく看病をしてくれて、とても安心して休めた。また、パートナーの子のお母さんが炭酸飲料の水や、日本のホッケーのようなものを買ってきてくれた。また、パートナーの子のお父さんが仕事先から、お見舞いに来てくれた。そのおかげで次の日は元気になり、ノイシュヴァインシュタイン城へ行くことができた。本当にホストファミリーの人たちの温かさや優しさがいままで忘れられないような思い出になった。

江井中学校 1年 浅野晃平



5日目(7月24日 木曜日)

8:30 中央駅集合
メルセデスベンツ博物館見学
ホストファミリーとのフリースタイル
17:00 お別れ会
ホストファミリー宅へ

5日目は、まずメルセデスベンツ博物館へ行きました。とても近代的な建物で館内は迷子になるほどとても広かったです。館内の展示には、車の歴史、ベンツとタイムラーの歴史、そして様々な種類の車がそろっていました。ここでは、日本語の音声ガイドも貸し出されており、車や飛行機、そしてそのエンジンなどの部品の進歩の過程がとてもよくわかりました。とても興味深かったです。

そして、その後はホストファミリーとお別れ会の会場に行きました。そこでは、今までお世話になったベックダイム先生やケニーギン・シャルロッテ高校の校長先生、日本領事館の方、今まで大垣市との交流に関わって来られた方、そしてホストファミリーの方々が集まりました。

一番最初にシュツットガルト市と大垣市の国際交流を行った方などとも合うことができ、その方が大垣市のマークがついたネクタイをさされていたのに驚かされました。その後、藤原さんの空手、時田さんの扇舞、そして日本でも練習していた大垣音頭や「泣いた赤鬼」の紙芝居など、日本独自の文化を披露させていただきました。大垣音頭では、川上さんの太鼓に合わせて最初、派遣団員だけで踊り、その後は会場にいたホストファミリーの皆さんにも参加していただいで一緒に踊りました。各団員は自分のホストに持ってきた大垣のはっぴを着てもらってみんなで大きな輪になって大垣音頭を踊りました。

僕たちは5日間のホームステイで様々なドイツの文化に触れることができました。そして、このお別れ会では大垣音頭を通して大垣や日本の文化をシュツットガルトの皆さんに触れてもらえてとてもよかったです。この貴重な体験を僕は一生忘れないと思います。

東海中学校 2年 西脇 慎一郎



ホームステイ

大垣市立興文中学校 2年 小島 悠太郎



<パートナーの子といっしょに・・・>

僕は、バイヤーさんの家にホームステイさせていただきました。

実際にドイツの方々と同じ暮らしをしてみても、日本とは違うところがいくつかありました。特に印象に残っているものが2つあります。1つ目は、夜です。ドイツでの午後9時の明るさは、日本での4時ぐらいの明るさです。ドイツに来て最初に驚いたことで、すごく変な感じがしました。2つ目は、食事です。「いただきます」、「ごちそうさま」を言わないので、違和感を覚えました。また日本食のような薄味のものや、味の濃いものも多かったのです。

ステイ先の方々は、僕に対してとてもやさしく接してくれました。とても明るい家族で、特にお母さんとお姉さんがすごく面白い人でした。

パートナーのケンティン君は、特に優しくしてくれました。プログラム中に、『飲み物はいいかい?』。と何回も聞いてくれたり、シャワーの出し方や電気のスイッチがどこにあるかなどを詳しく説明したりしてくれました。僕は、今とても感謝しています。

僕は最初、コミュニケーションがとることができるか心配でした。しかし、自分から話しかけないといけないので、何回も聞いてくれたり、自分から話したりしました。それに対してホストファミリーの方々も合わせてくれました。

僕はこの研修を通して、コミュニケーションの大切さを学びました。

ホームステイをして

金城学院中学校 3年 日比野 有紗



私がホームステイさせていただいた家族は、お父さんのズシュさん、お母さんのハンネさん、お姉さんのスズイラさん、そして、私のパートナーのヴィーナさんの4人家族でした。家族のみなさんは温かく笑顔で私を迎えてくれました。私はホームステイが初めての体験だったのでとても緊張していました。そんな私に明るく話しかけてくださったり、生活面でも気遣ってくださったので、安心して暮らすことができました。日本のお土産もとても喜んでくれました。

また、2日目の夕飯では、私が作った日本のお味噌汁と、お母さんが作ったドイツのジャガイモスープを作ったジャガイモスープを飲み比べました。どちらも本当に美味しく食べて幸せでした。

4日目には、お父さんがインドの方だったので、インドカレーを作ってもらって家族みんなで食べました。辛かったけど美味しかったです。お米にヨーグルトをかけて食べる、という初めての体験もしました。一気に二カ国の食べ物を食べられるなんて思っていなかったのが貴重な体験ができました。

そして家族で UNO をやってみるまで大爆笑して楽しんだり、ヴィーナちゃんに「ミカド」という棒取りゲームを二人で楽しんだり、ドイツは夜 10 時を過ぎて日もまだ沈まないのでも、お母さんとヴィーナちゃんの 3 人でテラスで読書をしたりと、たくさん楽しませてくれました。ヴィーナちゃんの学校見学やフルートレッスンにもついていて、色々勉強になりました。

最後の夕食はお姉さんの運転する車で、お母さんとお姉さんとヴィーナさんの4人で行きつけのピザ屋さんに連れていってもらい、美味しいピザをご馳走させていただきました。

最終日。お別れしたいという寂しい気持ちで朝を迎えました。家を出発するときにお姉さんとお父さんと握手でお別れし、シュツットガルト空港へ向かいしました。

空港に着き、とうとうさようならの時にヴィーナちゃんに抱きしめられて、こらえていた涙が一気に流れました。

ヴィーナちゃんとは、来年日本で咲く桜の写真を送ること、来年初めにヴィーナちゃんが日本にくるので再会すること、英語を一生懸命勉強して、もう一度ヴィーナちゃん一家に行くことを約束して、お別れしました。



本当にこの一週間は今まで 15 年間生きてきた中で最も充実していたなあと思っています。私を快く迎えてくださった、ヴィーナちゃん一家と出会えた事に、心から感謝しています。